

[Reference 12]

Japanese Utility Model Application No. 4-52828 (Japanese Utility Model Laid-open Disclosure No. 6-7609)

Disclosure Date: February 1, 1994

Applicant: Yoshino Kogyo

Title of Invention: Container for Liquid Type Lip Stick

The present invention is directed to a container for liquid type lip stick which can dispense the liquid type lip stick a little by little by a dispensing mechanism. The container has a container 7 for the liquid type lip stick. The container 7 has a dish-shaped part 9 located on the top opening. A dispensing small hole 8 is formed in the part 9.

A top plate 11 is pushed up by a slidable member 3 where by the liquid type lip stick is pressed and pushed out of the hole 8 of the dish-shaped part 9. Using a brush 4, the lip stick can be applied to the lip.

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-7609

(43)公開日 平成6年(1994)2月1日

(51)Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 4 5 D 34/00

審査請求 未請求 請求項の数1(全2頁)

(21)出願番号 実願平4-52828

(22)出願日 平成4年(1992)7月3日

(71)出願人 000006909

株式会社吉野工業所

東京都江東区大島3丁目2番6号

(72)考案者 岸 隆生

東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉
野工業所内

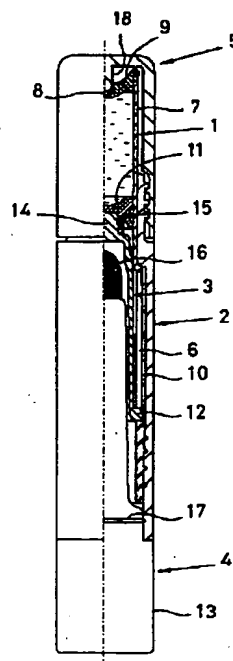
(74)代理人 弁理士 今岡 良夫

(54)【考案の名称】 液状口紅容器

(57)【要約】

【目的】 簡易な繰出し形機構を採用し、コストダウンを計ると共に馴れた棒状口紅と同様の扱いで口紅液を少量ずつ注出するようにした液状口紅容器を得る。

【構成】 中間部両側に割り長溝6, 6を設け、上部を口紅液収納部7とし、かつ上端開口に、中心部に注出小孔8を開けた盃形の受け皿9を冠着した細長な主筒1の外面には、中間部内面にねじ溝10を形成した回転筒2を回転はするが上下に移動しないように外嵌し、内部には前記口紅液収納部7に液密に内嵌してこの収納部7の底板を兼ねる頂板11を有し、下部両側の外向き突子12, 12を前記割り長溝6, 6を通しねじ溝10に係合した筒状のスライド部材3を上下スライド可能に収納し、このスライド部材3内に化粧筆4を下方に抜け出し可能に内装し、主筒1と回転筒2との相対回転動をスライド部材3の直進動に転換して口紅液収納部7内の口紅液を注出小孔8を通し受け皿9上に圧出させるようにした構成。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 縦に細長であって、中間部両側に割り長溝6、6を設け、上部を口紅液収納部7とし、かつ上端開口に、中心部に注出小孔8を開けた盃形の受け皿9を冠着した主筒1と、中間部内面にねじ溝10を形成して前記主筒1に回転はするが上下に移動しないように外嵌された回転筒2と、前記主筒1にスライド可能に内装された底開きの筒体であって、頂板11を前記口紅液収納部7に液密な内嵌してこの収納部7の底板を兼用させ、また下部両側に設けた外向き突子12、12を前記割り長溝6、6を通してねじ溝10に係合し、主筒1と回転筒2とを相対的に回転操作すると主筒1内を上昇スライドし、口紅液収納部7内の口紅液を注出小孔8を通し受け皿9上に*

2

* 圧出するスライド部材3と、柄13下部を前記回転筒2下方に突き出して前記スライド部材3に抜き出し可能に内装された化粧筆4と、前記回転筒2上部に外嵌されて主筒1上部を覆うキャップ5とからなる液状口紅容器。

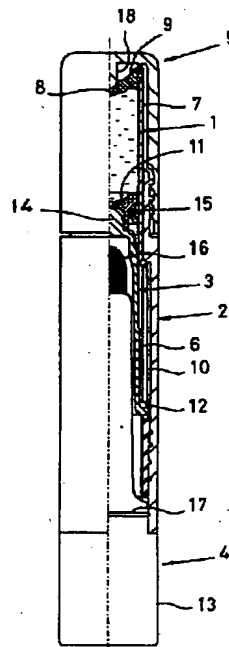
【図面の簡単な説明】

【図1】 主要部の右半部を縦断して示した一実施例の正面図である。

【符号の説明】

- 1 主筒
- 2 回転筒
- 3 スライド部材
- 4 化粧筆
- 5 キャップ

【図1】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、繰出し形機構により口紅液を少量ずつ注出する液状口紅容器に関する。

【0002】

【従来の技術】

口紅容器としては、棒状口紅をケースから外部に繰出して使用する固形口紅のものが主流であるが、化粧筆を用いる液状口紅もかなり普及してきている。

【0003】

液状口紅容器としては柔軟な容器胴部を圧搾して口紅液を口部の化粧筆に注出含浸させるチューブ形と、ポンプによる注出器本体を容器体に組込み、注出器本体を操作することにより口紅液を先端の化粧筆に定量注出して含浸させるポンプ形とが知られている。

【0004】

【考案が解決しようとする課題】

チューブ形のものは、胴部を圧搾して注出するものであるから、注出量の調整がむずかしく、うっかり圧搾すると一度に出しすぎることがあり、口紅液が化粧筆からボタ落ちしたりし、また無駄でもある。

【0005】

一方、ポンプ形のものは、一度の加圧注出量が定量化できるので必要以上出しすぎるようなことはなくなってくるが、構造が複雑化しコスト高となるのが難点である。

【0006】

本考案は簡易な繰出し形機構を採用し、コストダウンを計ると共に馴れた棒状口紅と同様の扱いで口紅液を少量ずつ注出できるようにした液状口紅容器を得るにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】

本考案の液状口紅容器は、縦に細長であって、中間部両側に割り長溝6, 6を設け、上部を口紅液収納部7とし、かつ上端開口に、中心部に注出小孔8を開けた盃形の受け皿9を冠着した主筒1と、中間部内面にねじ溝10を形成して前記主筒1に回転はするが上下に移動しないように外嵌された回転筒2と、前記主筒1にスライド可能に内装された底開きの筒体であって、頂板11を前記口紅液収納部7に液密な内嵌してこの収納部7の底板を兼用させ、また下部両側に設けた外向き突子12, 12を前記割り長溝6, 6を通してねじ溝10に係合し、主筒1と回転筒2とを相対的に回転操作すると主筒1内を上昇スライドし、口紅液収納部7内の口紅液を注出小孔8を通し受け皿9上に圧出するスライド部材3と、柄13下部を前記回転筒2下方に突き出して前記スライド部材3に抜き出し可能に内装された化粧筆4と、前記回転筒2上部に外嵌されて主筒1上部を覆うキャップ5とで構成している。

【0008】

【作用】

上記において、化粧時には化粧筆4を外部に抜きとり、キャップ5を外しておいて主筒1と回転筒2とを相対的に予定方向に回転操作する。すると、この回転筒2は上下方向には移動しないので、両側の突子12, 12を主筒1両側の割り長溝6, 6を通して回転筒2のねじ溝10に係合しているスライド部材3が上方にスライドすることになり、このスライドで口紅液収納部7内の口紅液を頂板11が押上げ圧迫する。従って、口紅液は注出小孔8から受け皿9上に圧出される。この受け皿9上に圧出された口紅液を化粧筆4に含ませ化粧する。

【0009】

受け皿9への口紅液の圧出量は、主筒1と回転筒2との回転操作量で定まるスライド部材3の直進量で決まるから、少量ずつ注出でき、しかもその調整は自在であり、出しすぎるおそれは全くない。

【0010】

【実施例】

以下図面を参照して一実施例を説明するに、本考案の液状口紅容器は繰出し形機構により口紅液を少量ずつ注出することを特徴とし、主筒1、回転筒2、スラ

イド部材3、化粧筆4及びキャップ5の主要部で構成している。

【0011】

主筒1は、上半部をやや縮径した縦に細長な円筒状のもので、中間部である下半上部の両側に縦に細長な割り長溝6、6を切欠き、また上半部の上部を口紅液収納部7とし、そしてこの収納部7上部開口に、中心部に注出小孔8を開孔した盃形の受け皿9に係合手段により冠着固定している。

【0012】

回転筒2は、上部をやや縮径した円筒状のもので、段部を前記主筒1の段部に乗せてこの主筒1外面に回転可能に外嵌装着してあり、主筒1の割り長溝6、6部に位置する内面にねじ溝10を形成し、縮径上部外面にねじ山を形成している。

【0013】

なお、上端は主筒1の口紅液収納部7の中腹部に止まり、下端は主筒1より幾分下方に延びており、そして下部内面の数条の周溝を主筒1外面の山の低い周条に係合させて、主筒1に対し回転はするが上下方向には移動しないように嵌合させてある。

【0014】

スライド部材3は、上端開口を閉塞し、下部開口は開放状態とした筒状のもので、前記主筒1に上下方向スライド可能に内装してあり、上端の閉塞板中央部からボス14を立設し、このボス14に口紅液収納部7の底板を兼ねる頂板11を螺着し、この頂板11の一部断面が弧状の弾性周壁15を前記口紅液収納部7内壁面に圧接させて液密化し、また下端両側から突子12、12を外向きに突出し、この突子12、12を割り長溝6、6を通して前記回転筒2の内面のねじ溝10に係合し、主筒1と回転筒2とを相対回転動したとき上下方向にスライドする取付けとしてある。

【0015】

化粧用筆4は、柄13上端に筆穂16を取付けたもので、柄13は前記回転筒2と同外径でこの回転筒2を下方に延長したような下部大径部と、この回転筒2下部内面に内嵌する中間中径部と、前記スライド部材3に遊装される上部小径部の3段の段形のものであり、中間中径部外面の山の低い周条17を対応した回転筒2内面の周溝に係合して落下しないように取付けており、使用時に下部を摘んで下方に

引き抜くと容易に引き抜き外すことができる。

【0016】

キャップ5は、やや縦長の形状で、頂板裏面中央部から前記受け皿9の注出小孔8を閉塞する棒栓18を垂設し、下部を回転筒2上部に螺合して主筒1上部を覆っている。

【0017】

この実施例において、化粧時には化粧筆4を抜きとり、またキャップ5を外し、片方の手の指で主筒1の上部を、他方の手の指で回転筒2をつまみ、これらを相対的に予定方向に回転操作すればよい。

【0018】

すると、回転筒2は上下方向に移動しないので、この回転筒2と螺合しているスライド部材3が割り長溝6、6に沿って主筒1内を上昇し、従って口紅液収納部7内を上昇スライドする頂板11がこの口紅液収納部7内の口紅液を上方に押し上げるので、口紅液は注出小孔8から受け皿9上に圧出される。この受け皿9上に圧出された口紅液を化粧筆4の筆穂16に含ませ、化粧すればよい。

【0019】

この口紅液注出機構は、棒状口紅における繰出し形機構と同じであり、従って操作は棒状口紅と同じで違和感がないので扱い易く、また簡単な機構なので低コストで提供でき、しかも少量ずつ注出されるので常に適量の注出が可能であり、化粧筆4に含みすぎることがなく、無駄もない。

【0020】

【考案の効果】

上記したように、本考案の液状口紅容器は、簡易な繰出し形機構により口紅液を注出する構成としたので、棒状口紅の操作と同様な感覚で操作できて扱いに違和感がなく、また少量ずつ注出できるので常に適量が注出できて無駄がなく、しかも構造が簡単なので低コストで提供できる利点がある。